

継続してきた“自分たちにできること”



3月5日(木)に養老町生活学校より、公共施設を利用する身体の不自由な人を支援するために車椅子1台を寄贈していただきました。町生活学校は、環境を守るための活動や福祉活動など、身近な生活課題の解決に向け、多岐にわたり取り組んでいます。なお、車椅子の寄贈は平成12年から毎年継続して行われています。

川地憲元町長は「毎年、継続して寄附いただき、大変感謝しています。いただいた車椅子は公共施設を利用される身体の不自由な人の助けとなっています。今後も様々な場面で地域の問題解決のためにお力添えいただきたいです」と謝辞を述べました。

寄贈いただいた車椅子は、公共施設において貸出用として設置します。

忘れない感謝の心



東海ろうきんカップ 第58回中日旗争奪 岐阜県少年サッカー選手権大会において、第3位に入賞した養老キッカーズのキャプテンである大倉颯士選手が、その報告をするためにチームを代表して2月27日(金)に川地憲元町長を訪問しました。

川地町長は「優勝までと一歩というところで、嬉しさや悔しさはあるかと思いますが、仲間とともにサッカーをして得た経験は、必ず大人になってから生きてくるものだと思います」と話すと、大倉選手は「キャプテンとして出場し、チームみんなで掴み取った3位という結果は本当に嬉しいです。サッカーができるように協力してくれる家族や監督、チームメイトへの感謝を忘れず、これからもプレーしたいです」と感謝を述べました。

健康を維持するために“肝心なこと”



3月7日(土)に町中央公民館 中ホールにて「第4回 地域住民が主体となった健康づくりフォーラムin養老」が開催され、地域で進めている健康増進の取り組みについて情報を共有しました。

今回はがん予防をテーマとして、町保健センターによる町民の健康状態と健康課題についての報告、町社会福祉協議会と日吉地域自治町民会議による健康増進の取り組み事例の紹介、「肝臓がんと脂肪肝」と題したあいほら医院の山剛基先生による講演がありました。参加者は、心臓や腎臓と並ぶ大切な臓器である肝臓が、しっかりと役目を果たすることができるよう、負担を減らし、いたわっていくために気を付けるべきことを肝に銘じました。

ソフトテニスで日本一になるその日まで



第37回都道府県対抗全日本中学生ソフトテニス大会と第11回全国ミズノカップジュニア選抜ソフトテニス選手権大会へ出場する稲垣亜瞳選手(GifuTed所属)が、3月5日(木)に川地憲元町長を訪問しました。

川地町長は「2つの全国大会への出場、誠にありがとうございます。練習は嘘をつきません。これからも努力を続けて、またいい報告を聞かせに来てください」と激励し、稲垣選手は「個人でも団体でも去年よりいい成績を目指します。団体戦ではキャプテンとしてチームをまとめて、みんなで勝利を掴み取りたいです。ソフトテニスで日本一のメダルを獲得することを目標として取り組んでいきたいです」と抱負を語りました。